

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100284		
法人名	(有)はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑 津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67番2		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念を基に、また今期目標「グループホームケアの基本に戻る」を軸にその方、その方にふさわしい、またできる事、できない事を見極め、出来る能力を自信につなげる支援をし、認知症の正しい診断をもとに職員が同じレベルで行っていきけるような「はるひ苑」の介護マニュアルを作成している。地域行事も積極的に出向き、公民館での催し物への参加・見学、保育園との交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には他の事業所の施設長や児童館館長の参加もあり、利用者が地域の中で暮らし続けられるように関係者が一緒になって事業所の運営やサービスを話し合っている。今では地区の文化祭には「はるひ苑コーナー」を設けて貰うようになってきた。自治会の新年会に招かれたりマラソン大会の応援に行ったりすると「はるひ苑さんですか？」と声をかけてくれる地域の人もある。職員は、利用者がゆったり楽しく、残された力を発揮して暮らせるように、利用者により寄り添うことを念頭におき日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際、及び毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し、理念に基づき、意識の見直し、又再確認し実践につなげる様努力している。	日々唱和をして意識付けを行っているが、言葉だけで終わらないように、利用者を人生の先輩として敬い日々実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の事業計画への参加、児童・学生との交流。なじみの美容院、行きつけの病院への外出、また他施設との交流も増えている。	中学生の体験学習の受け入れ、児童館の園児の訪問、地区のかかし祭り見学、他の事業所から招待され昼飯を囲みながら交流する等、地域とのつきあいが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内外で研修を積み重ね、はるひ便りの発行を通じて、研修への参加、報告などの記事を記載。また、苑内の様子をみていただけるよう、見学や運営推進会議へのお誘いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場、地域の方、近隣の施設の方、ご家族などに参加していただき、サービスの向上に努めている。	地域や地区の情報提供や行事への参加の誘いもあり、運動会では利用者もパン食い競争に参加して楽しむ等、意見をサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の苑だよりを手渡し、報告・連絡・相談を行い、連携を図っている。	日頃から連携を図り、利用者の状況を報告し相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎回の会議、社内研修で取り上げ実践している。定期的なチェックリストの記入で意識を高めている。玄関の施錠は、夜間以外は開放している。	会議や研修等で理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。独自の自己評価チェック表を作り全職員が定期的に振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、毎回の会議で取り上げ、見過ごさない様、注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおられる。さらなる理解と活用への取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人にもホーム内の見学や短時間の滞在等試み、不安・疑問点にはご相談に乗り、理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際には、直接ご意見・ご要望等を傾聴する他、毎月送付する郵便物の返信で、ご家族からの要望をお聞きしている。	面会時に聞いたり、毎月送付する「はるひ苑便り」で様子を詳しく知らせ、意見、要望があれば返信で意見を書いて貰いサービスに反映させている。利用者は会議に参加して意見を述べている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、申し送り時に意見・提案を聞く場を設ける等、また個別面談なども年間計画の中にいれ、職員の意見を取り入れるようにしている。	会議や面談などで意見を聞き、研修参加の要望等実現させている。看取りについての職員の気づきや意見を今後の支援に繋げていくよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価・人事制度を取り入れ、より向上心に向けての環境作り、スキルアップ研修も行い、やりがいのある連携のとれた職場作り にしようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修や学ぶ機会を多く持つ事が必須だが、地理的条件から幅広く外部の研修に参加できないのも事実である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は益田圏域の管理者交流会、津和野地区のオレンジの会での情報交換会に出席し、年2回のGH交流研修会で話題の提供や問題点など話し合っている。また、相互訪問等の活動も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、ご家族、サービス利用中のご本人にもお会いし、思いを傾聴し、アセスメントを行いながら、関係を導いていく。入居後も一対一でしっかりコミュニケーションが計れ、良い関係作りが出来るよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや思いも傾聴しながらサポートし、何度にもわたるモニタリングを行い、相互の信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学時にご本人、ご家族の思いや状況を確認し、他職種との連携を図りながら最良の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体で生活できるよう努めているが、まだまだ工夫が必要であり、共同生活の中、お互い支えあいながら生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にお住まいの家族もおられるが、毎月の便りや必要時には電話連絡など行い、関係を常に築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医、行きつけの美容院やお店、神社などの外出により、知人との再会も途切れることなく継続できている。家族以外の知人の面会もあり。	太鼓谷稲荷神社へお参りして信仰が続けられるようにしたり、茶道を教えた知人の面会時には抹茶の用意をしてもてなし、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、それぞれが役割りをはたし、支え合えるよう、時には職員が間に入り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや他施設に入られた方にも面会する等、また、看取りをさせていただいた家族様とも継続的に関係を保てるよう声をかけさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に思いをくみとり、職員間で情報交換を行い把握、検討している。	ドライブの時や居室などでの様子から利用者の思いを把握している。困難な場合は筆談をすることもある。化粧品を買いに行く等、思いを日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ケアマネージャーや病院施設の生活相談員からの聞き取りをし、本人とのコミュニケーションや家族、知人からの情報もより多く得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分に合わせてケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、本人様の思いや訴えを含め、チーム内での情報交換を密に行い、本人・家族に確認しながら作成に努めている。	担当者を中心に、本人、家族の意向を取り入れ現状に沿った介護計画を作成している。気付きや情報は日誌に書き、全職員でカンファレンスで共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はもちろん、面会や行事等があった際には、より多くの記録を残しケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議で取り上げ、事業所全体の課題点として、多くの意見やアイデアが出るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園との交流は、年4～5回行っており、また、中学生の体験学習も毎年受け入れて交流を多くし、地域の理解を推し進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診に加え、医療連携のサポートにより必要時には受診できるよう支援している。受診時には、職員が同行し、状況説明をご家族に確実に報告しています。	以前と同じかかりつけ医を継続し、受診や往診の支援をしている。受診は病状に応じて家族同伴の時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を導入し、報告・連絡・相談を密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図り、ご家族とも密に連絡を取り合っており、直接面会に行き状況の把握と共に、早期退院に向け病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社の方針のもと、本人・家族とも十分な話し合いをした上で、希望に沿ったケアができるよう努めているが、受診できる医師、病院の問題の他、今後の課題も多い。	家族、本人の希望を尊重し、かかりつけ医や関係者が十分話し合いながら看取りを行った。職員間で積極的に話し合い、終末期のケアを行う時の医師との関わり方等、今後の課題も出てきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門講師を招き、訓練を実施している。各マニュアルや連絡体制についても備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施 ※7月には県内が豪雨災害に見舞われ、今一度全職員で備えの確認、地域との連携が必要と思われます。	今まで、火災に重点をおいた訓練を行っていたが、今回の豪雨災害で避難場所の変更や自治会との話し合いなど再確認し、災害対策に向けた地域との連携を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、その方に合った言葉かけで対応する様にしています。	本人の自尊心を大切にし、品位ある言葉かけをするように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いをくみ取り、尊重できるよう傾聴し、ケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体であるように気を付けて、ケアにあたっている。個別ケアもとり入れ支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みや気分にあった服を選んでいただき、また、一緒に選んだり支援しています。お化粧品もおすすめしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の畑で育ったものや、近所の方からいただく野菜を使って、季節ごとのメニューを取り入れ、下ごしらえをし、切ったり、洗ったり、片付け等一緒に楽しんでおります。	利用者の希望メニューも取り入れ、ホットプレートを使用し、焼き飯、お好み焼きなど一緒に作って楽しんでいる。食事の準備や食器洗い等を一緒に行っている利用者もいる。	グループホームの特性上、職員も一緒に食事をする体制作りを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表をもとに栄養バランスを考え、摂取量の確認、水分補給も声かけにて摂取しています。状態を把握し、摂取しやすい形やお好みの飲み物等からすすめています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、誘導でそれぞれに合ったケア用具を使い、また、保清に心がけケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎、希望時に誘導介助を行い、一人一人の排泄パターンの把握に努め、不快なく排泄できる様努めている。	排泄パターンを把握し声かけをして支援している。日中は、なるべく布パンツを使うようにしている。嫌がる人には言葉かけを工夫してトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、食事や水分量にも気をつけ、自然排便を促すが、困難な場合には服薬コントロールを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人主体で入浴できるよう、体調や身体状況に合わせて入浴していただいています。	希望に沿いゆっくり入浴できるように支援している。歌の好きな利用者には、入浴中、ラジカセで歌を流したり、石鹸入れに名前を書いて、色でもよくわかるように工夫し個別な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態を把握し、独自に合わせて休息、安眠できるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更や中止があった際には、報告・共通理解し、職員間で確認し合う。医療連携を通じ相談する事もあり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野を活かした取り組み、役割が持てるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望にそえるよう、季節の行事・外出を行っています。今夏は猛暑・災害により昨年より外出の機会が少なかったが、今後はもうけていきたい。	地区の盆踊り、花火大会、夕涼みなどに出かけている。希望があれば、ふるさと訪問、本人の家、昔勤めていた会社など、普段行かないような場所へも外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方もあり、買い物の付き添いや一緒に選ぶなど支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、また荷物などが届いた時には、直接ご本人様とお話ができる様支援しています。手紙の返信ができるよう個々のレベルに応じた取り組みを行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、快適に心地よい環境づくりに努めています。利用者の方の作品・写真を飾る等季節感を大切にしています。	交流のある園児や奴祭りの隊員と一緒に撮った写真や、中学生との体験学習で作った作品等を飾り、落ち着いた空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で会話を楽しまれたり、それぞれ思い思いに活動できるよう支援しています。中庭へお誘いすることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、なじみの家具を設置できるようにしています。ご自分で作られた作品を掲示する等、工夫し居心地よく過ごせるよう支援しています。	家で使っていた姫鏡台、毎日眺めていたこけし人形、習字の賞状等なじみの物を置き、安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々で必要に応じて、その人に合った自立生活が長く続けられるよう支援しています。		